
反面ライダー × まどか マギカ † -ゼファー&ディスピア- ライダー・魔法大戦- †

自分不器用ですから

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー×まどか マギカ† - ゼファール & amp; ディスピア -
ライダー・魔法大戦 - †

【Nコード】

N3349Y

【作者名】

自分不器用ですから

【あらすじ】

主人公はまどかの弟「鹿目 タツヤ」。物語はまどかが女神となり世界を改変した12年後で今現在でも現れる魔獣とこの世界で戦っていたのは魔法少女だけではなく「仮面ライダー」も共に戦っていた。タツヤはその仮面ライダーの1人「左 翔太郎」の元で探偵見習をやっていたのだがあるガイアメモリの事件で偶然に手に入れたガイアメモリそれは彼にとっての「運命のガイアメモリ」だった。そして現れた新たな敵「仮面ライダーディスピア」、彼はグリー

フシードに内包されている絶望の力を吸収してこの世の神となろうとし、その計画の支障となり、概念となってこの世界から絶望を排除している女神となったまどかを世界と繋いでいるタツヤを抹殺しようとする。そして姉・まどかの真実を知り、その想いを受け継いだタツヤと『運命のガイアメモリ』は『絶望のライダー』に勝てるのか？『風都・見滝原』で新たな魔法少女と世界を巻き込んだライダー大戦が幕を開ける。

設定資料／まどか マギカ版／

1、名前：鹿目 タツヤ 年齢：15歳 身長：165cm

／人物説明／

女神となった『鹿目 まどか』の弟で今作の主人公。

概念となったまどかを未だに察知する事があり、いつか姉と再会する事を夢見ている。

時折聞こえる姉の声はどこかで心が通じているテレパシーのようなものと認識している。

正義感が強く、行動力がある少年で今現在は鳴海探偵事務所で探偵修行中。

前に魔獣と呼ばれる怪物に襲われたところを鳴海探偵事務所の探偵・

『左 翔太郎』

の変身する『仮面ライダージョーカー』に助けられてから助手を志願し受理された。

今回はドーパント事件に巻き込まれた際に『運命のガイアメモリ』と出会う事になる。

□仮面ライダーゼファール□

鹿目 タツヤが変身する仮面ライダー。エメラルドとホワイトをベースにした身体に

青の複眼を持つ。今迄、開発されたライダーの長所を組み込まれている新世代型。

能力はエターナルやCJXに匹敵、又は凌駕すらする能力を秘めている。

打撃などに自身のメモリの力を乗せて放つがその際はエメラルドのオーラを纏う。

□ツール□

・ゼファードライバー・

ゼファード専用の変身機器。通常は短剣形態で柄の部分に変身用のスロットが1つとさ

らに刀でいう鰐の正面部分に2つのスロットがあり、ここに各メモリをセットする事

で固有能力を発動する事が出来る。

右側のスロットが属性・性質変化、左側は身体能力・武器を変化させる。

・ソードフォームー

ドライバーの長剣フォーム。基本となる形態で特殊素材でできているため切断力は高い。

・ブラスターフォームー

ドライバーの銃形態。連射・砲撃と切り替えが可能。

・ナックルガードナー・

ゼファードの右腕に装備されている籠手と盾が融合した装備。マキシマムも発動可能。

マキシマム時は上部カバーを展開してメモリをはめ込み、カバーを閉じる事でエネルギー

ギアがゼファードライバーに装填され、単体技、またはツインマキシマムも可能。

・ガーディアンロープ・

変身した直後から纏っている赤いロングマント。エターナルを参考に製作された。

能力はエターナル同様に相手の攻撃を全て無効化する力を持っている。

□メモリ□

・ゼファームメモリ（Z／翡翠）

『希望の風の記憶』を宿したガイアメモリ。ゼファームへの変身メモリ。

このメモリは特殊な効力があり、使用者の希望や信じる力に比例してその能力を上げる。

つまりは人の光を力に変えるが逆に心が闇に囚われたり、強い意志を持ってない者が使うと能力の出力をほとんど活かしきれない。

・セイヴァームメモリ（S／白）

『聖剣の記憶』を宿したガイアメモリ。ソードフォームの切断力＋ゼファームの機動力を

強化する事が出来る。マキシマムは直接の斬撃タイプ。

・フォースメモリ（F／青）

『霊気の記憶』を宿したガイアメモリ。全フォームに使用できる万能なメモリ。

闘気と覇気を強化する事で高い水準でゼファームメモリを使用できる状態にする。

マキシマムはそれぞれの武器にオーラを纏わせてエネルギー波として放つタイプ。

・バーストメモリ（B／赤）

『炸裂の記憶』を宿したガイアメモリ。ブラスターフォーム専用。放ったエネルギー弾を着弾と同時に広範囲に拡散するタイプに変化させる他にも炸裂

させたエネルギー弾を自在に誘導して的確且つトリッキーな射撃が可能。

・パスワードメモリ（P／黄）・

『膂力の記憶』を宿したガイアメモリ。全フォームで使用できるが銃撃スタイルのブ

ラストフォームでは能力を活かしきれないので実質、ソードフォーム用。

文字通り身体能力を強化するメモリでセイヴァーと最も相性がいい。

・ユニオンメモリ（U／オレンジ）・

『同盟の記憶』を宿したガイアメモリ。他者のガイアメモリの能力を最大限に発揮さ

せる事が出来るゼファー特有の支援専用メモリ。自身強化は不可能。

・タイムメモリ（T／黒）・

『時間の記憶』を宿したガイアメモリ。マキシマム扱いとなるが発動直後に世界その

ものの時間を10秒間完全停止させる。

一度使用すると黒から石の材質に変わり、元に戻るまで使う事が出来なくなる。

・ゼロメモリ（Z／透明）・

『無の記憶』を宿したガイアメモリ。短時間しか使えないゼファーの使用できるメモ

リの中でも最高クラスの能力を有する。マキシマム専用。

能力は使用者の全ての枷を除去し、極限の能力を発揮させるメモリだがその反面、使

用者への負担を無視した能力発動に使用者が耐えられなくなる危険性も秘めている。

□ マキシマムドライブ集 □

・ゼファードゴスペル（ゼファーマemory単体）

上空に飛上り、足元に超加速補助の魔法陣を展開して突撃し、初撃で相手に刻印を叩き込んでそれを足場に空中で前転しながらトドメのヒールキックで爆殺する。

・ゼファーブレイドアサルト（ゼファーマemory・セイヴァーマemory）

ゼファードライバーに装填したエネルギーを刃に纏わせて超加速補助魔法陣を通過して加速しながら相手を切り刻み、裏に通り抜けながら薙ぎ払い斬りで一閃する。

・ゼファーストーム（ゼファーマemory・ブラスターフォーム時）

メモリのエネルギーを圧縮した弾速強化魔法陣を通過させて超加速弾を叩き込む。

その際は竜巻のようにエネルギーの渦が一定範囲のモノを巻き込む効果がある。

2、曉美 ほむら 年齢：26歳 身長：165cm

（人物紹介）

かつてまどかが女神化する際に魔法少女として戦っていた女性。現在は多少の能力が残っているが以前は大幅な時間跳躍が可能だったが精々、数時間が限度で止めてい

られる時間も全盛期に比べれば半分以下になってしまっている。

タツヤが探偵事務所に入ったおりに彼の両親から頼まれてタツヤの面倒を見ている。

今現在はタツヤと同居しながら彼の成長を見守って平穏な生活を送っている。

戦いに身を投じて苦悩や挫折しそうになるタツヤを常に支えて彼に道を示す言葉を投

げ掛け、以前は冷淡なイメージだったが今は母性に満ちたタツヤの理解者となった。

髪にはまどかから貰った赤いリボンをつけてポニーテールの髪型にしている。

タツヤからは『姉さん』と呼ばれている。

3、美樹 さやか 年齢：26歳 身長：170cm

～人物紹介～

ほむら同様、かつての魔法少女だったが今現在は力を失っている。

しかし剣術を使っ

ていたせいか剣道が得意になっており、戦闘力は一般人より高い。

今現在は見滝原中学校で学生たちのカウンセラーとして教師生活を送っているが以前

の自分のように『ちょっとした不幸』から人として道を外さない様に世界に絶望しな

いように子供達を導く教師を目指して奮闘している。

以前は険悪だったほむらとも今は和解し、時折、2人でお茶などをする仲になった。

杏子やマミとも未だに良好な関係を築いており、4人揃って食事な

どもするようになる。

以前は『上条 恭介』に好意を抱いていたが親友との恋を素直に認めてそれからきつぱりと振り切った。そして今現在は別の彼氏と交際中。仲も良好なようだ。

タツヤからは『美樹先生』と呼ばれている。

4、佐倉 杏子 年齢：27歳 身長：174cm

（人物紹介）

ほむらと同様にかつての魔法少女だった女性。今現在は見滝原研究所に居候中。

かつての師匠だった『巴 マミ』の指揮する見滝原研究所（ガイアメモリ、またはそれを使った武装開発）に所属して試運転のテストなどを手伝っている。

男勝りな口調は健在ではあるが前よりファッションや容姿などに気を配る部分がでて以前よりずっと女性らしくなっているが羞恥心に欠ける言動がたまに出る。

タツヤの師匠でもある『左 翔太郎』とは依頼などを共有する仕事仲間だが気の合う彼に密かに好意を抱いてはいるのだが鈍感なためになかなか進展しない。

タツヤとは年齢差があるのだが親友のような付き合いで自分の事も呼び捨てで呼ばせる。
ゼファアの第一変身者。タツヤは『杏』と短縮して呼んでいる。

5、巴 マミ

年齢：27歳

身長：178cm

〈人物紹介〉

ほむらと同じかつての魔法少女だった女性。今現在は見滝原研究所の所長をしている。

元は魔獣やドーパントから護るためにやっていた研究に賛同する者が増えて研究所を

設立、以降は所長として秘書の『佐倉 杏子』と共に忙しい毎日を送っている。

仮面ライダーとして元々戦っていた『左 翔太郎』や後にライダーとなるタツヤのため

に新たな装備などを開発して彼らをバックアップする心強い人物。元から姉のような性格なのでタツヤの事も弟のように気にかけているが反応が面白い

のでよく悪戯をしかけているので彼には最初、必ず警戒されてしまっている。

タツヤからは『マミ姉』と呼ばれている。

6、鹿目 マドカ

年齢：18歳

身長：162cm

〈人物紹介〉

女神となったオリジナルの『鹿目 まどか』が管理する次元とは別の次元から『門矢

士』と共に現れた別次元の『鹿目 マドカ』である。オリジナルより成長している。

だが向こうにも『たつや』がいるようでこちらの世界の『タツヤ』を見て本当の弟のようにすぐに接するようになる。

オリジナルが『魔法少女』だったのに対して仮面ライダーの世界から来た彼女の場合は『仮面ライダーオーズ』に変身するようになっている。

□ 仮面ライダーオーズ □

『鹿目 マドカ』がオーメダルの力を用いて変身する仮面ライダー。胸部に円形のプ

レート・オーリングサークルがあり、使用したメダルのモチーフとなる3種類の生物

の顔の図柄が描かれ、頭部・四肢に向かってエネルギー流動路・ラインドライブが伸びている。全身のベースは黒であり、サークル・ライン・頭部はメ

ダルに準ずるカラーリングとなっている。各部位が力を発揮する場合、オーリングサークルの該当部位

が発光しラインドライブからエネルギーを送り込む。メダルの組み合わせ次第であら

ゆる状況に対応できるが、その反面常に高い状況判断能力が求められ、判断が遅れる

と隙ができてしまう面がある。そのためそれぞれのメダルの特性を把握しており、冷

静に状況・敵の分析ができ瞬時にメダルの組み合わせを判断し高い身体能力・正確な

投擲能力があるサポート役がいることが望ましい。

□ ツール □

・オーズドライバー

オーズの変身に必要なアイテムのセット。オーメダルとともに石板の状態で封印されていたが、アंकからマドカに渡されて彼が装着したことにより、封印が解かれた。

・オースキャナー

オーズドライバーにおいて、システムの核を担うスキャナー。普段は右腰部にマウントされている（変身・コンボチェンジ完了時は自動的にマウント状態に戻る）。オー

カテドラルに挿入した3枚のコアメダルを横一線にスキャンすることでメダル名の音

声が発音されると共に、コアメダルの力を取り込み、変身者の肉体に転送する。さ

らに、変身中にメダルを再スキャンすると「スキャニングチャージ！」の音声と共に

に各メダルの力を最大解放し、各形態に応じた必殺技を発動する。

・オーカテドラル

オーズドライバーのシステム全体を統括するためのベルト。腰に装着すると共にオ

ースキャナー・オーメダルネストが現出する。バックル部に3つのメダル挿入口を設

けており、ここにコアメダル3枚を挿入し、斜めに傾けることでコアメダルの力を覚

醒させる。3つの挿入口は左から頭部・腕部・脚部に対応している。

・メダジャリバー

オーズ専用の大型剣。全ての形態で使用可能で、主にタトバコンボ時で使用。セルメ

ダルを3枚投入しオースキャナーでスキャンすることで「トリプル！ スキャニングチ

ャージ！」の音声と共に必殺技を発動する。

* 今現在はここまでです。おって追加したいと思います。

設定資料〜仮面ライダー勢〜

1、左 翔太郎 年齢：26歳 身長：175cm

〜人物紹介〜

私立探偵で「鳴海探偵事務所」に所属しているが、運営していた鳴海荘吉が不在の今

、その意思と看板を受け継ぐ。

1950年代 - 1970年代調のハードボイルドに感化されており、レイモンド・チャンドラ

ーのハードボイルド小説を愛読、ハンフリー・ボガートばりのソフト帽を愛用し、立

ち振る舞いなども常にハードボイルドを心がけているが、中身はよくも悪くもお人好

しの三枚目で昔とあまり変わっていない様子だ。

だが探偵術、護身術に関しては磨きをかけており、街ではかなり信頼されている。

かつては相棒の『フィリップ』と探偵事務所をやっていたがある事件から彼を失ってお

り、襲われていたタツヤを助け、彼の『誰かを護れる一人前の男』になりたいという

強い想いをもって自分の新たな相棒兼弟子として共に事件解決に奔走する。

『仮面ライダージョーカー』に変身する事が出来る。

□仮面ライダージョーカー□

左翔太郎がジョーカーメモリで単独変身する仮面ライダー。基本カラーは黒。外見は

セントラルパーテーションがない点を除けばWジョーカージョーカー

ーと同様。Wのよ
うにソウルメモリを用いた能力の複合が無いために、Wサイクロン
ジョーカーの半分
のパワーしか持たないが、ジョーカーメモリの『切り札の記憶』が
ロストドライバー
により極限まで高められているため、非力さを補って余りある運動
能力と優れた格闘
技を活かした接近戦を得意とする

□ ツール □

・ロストドライバー・
ダブルドライバーのプロトタイプで外見も同様だが、メモリスロッ
トが右側にしかな
いのが特徴。また、ダブルドライバーでは右腰のマキシマムスロッ
トに刻印されてい
る『W』の文字も省略されている。なお、これを使って変身したラ
イダーには身体
中央にセントラルパーテーションの跡が見られる。

・リボルギャリー・
W専用的高速移送装甲車。普段はボディを展開した状態で鳴海探偵
事務所の地下ガレ
ージに格納（ガジェット組立などの作業場として使う場合もある）
してあり、必要時
にはスタッグフォンによる遠隔操作で出撃する。超大型の車両なが
ら、オートパイロ
ットによる軽快な走行が可能。車体後部はハードボイルダーの換装
ユニットを格納す
るリボルバーハンガーを備えハードボイルダーの母艦兼発射台とし

て機能する。

・ハードボイルダー・

W専用のバイク。名付け親は翔太郎で、翔太郎は変身時だけでなく日常でもこのマシン

を愛用する。黒色の車体前部と、緑色の車体後部で構成され

ボイルダーユニット

ており、必要時には後述のブースターが装着される。車体後部は状況によって換装さ

れ、陸海空あらゆる局面に対応する（換装は変身前でも可）。自動操縦機能が搭載さ

れているのか、走行中にWが両手を離しても安定した走行が可能。

武装はフロントカ

ウルに装備された多目的ガンポッド・ユニバーサルランチャー。W搭乗時のガイアメ

モリのパワーを宿すことが可能で、それによる様々な戦術が展開できる

□メモリ□

・ジョーカーメモリ（J / 黒）

『切り札の記憶』を宿したガイアメメモリ。運動能力が高まり近接格闘に優れる。

□マキシマムドライブ集□

・ライダーキック・

右足に紫のエネルギーを纏い、跳び蹴りを叩き込む。

・ライダーパンチ・

右拳に紫のエネルギーを纏い、標的を殴りつける。

2、照井 竜 年齢：28歳 身長：175cm

（人物紹介）

革ジャンのライダーファッションを好むなど刑事らしからぬ風貌だが、非常に優

秀であり若くして警視に就任、ドーパント関連事件の捜査を担当する「超常犯罪捜

査課」（拠点は風都署の3階）を設立し、その課長となる。普段はドウカティ社製

の赤いカスタムバイク「ディアブロッサ」に乗る。一警察官として優秀なだけでなく

、格闘技やバイクの操縦技術にも精通している。

ミュージアムが壊滅し、財団Xが風都から撤収した後も超常犯罪捜査課に残り、鳴海

探偵事務所と共にドーパント犯罪の取り締まりを続けている。

タツヤはその強い意志や護りたい人のために強くなろうとする姿勢を気に入ってかま

だ15歳ではあるのだが1人の『男』として認めて時折、訓練に付き合っている。

『仮面ライダーアクセル』に変身する。実はさやかと交際中である。

□ 仮面ライダーアクセル □

照井竜がアクセルメモリで変身する仮面ライダー。基本カラーは赤。鋭利な形状とな

った「A」の文字が頭部に見られる。モチーフはオンロードバイク

で、フルフェイス

・ヘルメットのようなマスクと、背部・脚部に装着された車輪が特徴。シールドの奥

に隠された青い円状の複眼は変身直後・マキシマムドライブ発動時に発光する。

アクセルドライバーの右グリップ部・パワースロットルを捻ることで、メモリのパワー

ーを伝達して力を高め、エンジンブレードによる豪快な剣技・専用技を駆使する。

・バイクフォーム・

アクセルがバイク型に変形したアクセルの高速移動形態。如何なるオフロード・悪路

も縦横無尽に疾走でき、氷の上でもスリップすることなく標的を追跡する他、垂直の

壁を駆け上がることで可能。足裏のマフラーから熱風を放出して攻撃もできる。

・トリアルフォーム・

トリアルメモリによって多段変身したアクセルの音速加速形態。

最低限必要な部分

を除いた装甲などの重量物を徹底排除し、大きな軽量化が施されたことで、運動性能

の飛躍的な向上・音速をも超える超高速移動を実現している。相手の攻撃を寄せ

付けず、瞬時に懐に入り込むスピーディな肉弾戦を得意とするが、大幅な軽量化によ

り、耐久力・一撃分の攻撃力（最大威力でも約1/4）が著しく低下している

・アクセルブースター・

ガイアメモリ強化アダプターを装着したアクセルメモリで多段変身

したアクセルの飛行形態。基本カラーは黄。マスクのシールドは黒鉄色のシャッターで覆われ、バイクフォームへ変身するための車輪が失われた代わりに飛行用のブースターが全身に設けられている。ブースターの爆発的な加速力で自在に飛行できるだけでなく、攻撃力・スピードも通常時のアクセルを上回っており、高い機動性を活かした三次元的な空中戦闘を得意とする。

□ ツール □

・アクセルドライバー・

バイクのスロットルを模したアクセルの変身ベルト。変身者の腹部に当てることでバツクルからベルトが伸張・装着され、上部中央のスロットにアクセルメモリを挿入しパワースロットルを捻ることで、装着者をアクセルに変身させる。マキシマムドライブはメモリを挿入したまま左のクラッチレバーを引くことで待機状態になり、パワースロットルを捻ることで発動する。

・エンジンブレード・

アクセル専用の大型剣。ゆえに変身せずとも使用可能だが、アスファルトに減り込むほどの重量（設定上20kg）であり、生身の人間の腕力では戦闘はおろか携行すらままならない。

鋭利な刀身とその重量により、単体での斬撃でも高い威力を誇る。さらに刀身を押し下げることで出現するメモリスロットにエンジンメモリを差し込み、グリップのトリガーを引くことで、エンジンメモリに記録されたエンジンパワーの付加攻撃を繰出す。

□メモリ□

アクセルメモリ（A / 赤）

『加速の記憶』を宿したガイアメモリ。熱風が生まれる程の超加速とオートバイのような形態への変形能力を与える。単純なメモリの性能ではサイクロン以上のスピードやヒート以上の放熱を見せる。ただし、Wと異なりこのメモリの力を最大限に引き出す専用ドライバの性質から、アクセルドライバでの変身時は他の形での使用時よりも極限まで力を発揮することが可能となる。

・トリアルメモリ（T / 青）

「挑戦の記憶」を宿したガイアメモリ。アクセルメモリと交換した後にドライバのパワースロットを捻ることでアクセルトリアルに強化変身させる（同時にスーツのカラーが、赤↓黄↓青の順に変わる）。信号機とストップウォッチを模した装飾が施されており、ドライバに挿入するメモリモードと、マキシマムドライブを発動するマキシマムモードに変形する。他のメモリとは異質であり、マキシ

マムドライブは専

用ツール（ドライバー）から外し、メモリ単体の状態でマキシマムモードに変形させ

てスイッチを押すことにより発動し、発動中は秒数を計測するカウンターが起動、も

う一度スイッチを押すことにより手動でプログラムを中止する機構となっている。

□ マキシマムドライブ集 □

・ アクセルグランツァー（通常時・アクセルメモリ）

全身に高熱を纏い、後ろ跳び回し蹴りを叩き込む。破壊力は35t。

・ エースラッシャー（通常時・エンジンメモリ）

エンジンブレードからA字型のエネルギー刃を射出する。

・ ダイナミックエース（通常時・エンジンメモリ）

エンジンブレードで周囲をA字型に切り裂く・斬撃を一振りずつが一斉に飛ばす。

・ マシガンスパイク（アクセルトライアル・トライアルメモリ）

トライアルメモリの秒読みと同時に最大加速を行い、「T」の字を描くように連続で

横蹴りを叩き込む。キックの数によって威力が変化するため、破壊力は未知数である。

・ マシガンスラッシャー（アクセルトライアル・トライアル/エンジンメモリ）

トライアルメモリの秒読みと同時に最大加速を行い、「T」の字を描くようにエンジ

ンブレードで切り刻む。

・ブーストスラッシャー（アクセルブースター・エンジンメモリ）
低空飛行を行い、黄色のエネルギー刃をまとったエンジンブレード
で横一文字に切り裂く。

3、天道 総司 年齢：23歳 身長：180cm

（人物紹介）

仮面ライダーカブトに変身する青年。自らを「天の道を往き、総て
を司る男」と称す

る。自分が世界で1番偉いと思っており、天（空）を指し示
すポーズをとる。

人を見下した、傲岸な態度を取るが、弱者は決して見捨てず、救い
の手を差し延べる。

祖母を尊敬し、しばしば「おばあちゃんが言っていた…」というセ
リフの後、教えを口

にする。これらの格言は「天道語録」と呼ばれる。プロ級の腕前で
ある料理をはじめあ

らゆることに精通する完璧超人でもある。

街には突如として出店を出して現れる。多いのは何故か鳴海探偵事
務所の一階である。

□ 仮面ライダーカブト □

天道総司が変身するマスクライダー。モチーフはカブトムシ（マ
スクドフォームは蛹

）。基本カラーは赤、複眼の色は水色。「光を支配せし太陽の神」
と呼ばれる。

□フォーム□

・マスクドフォーム

カブトの第1形態。

・ライダーフォーム

カブトの第2形態。変身時はマスクドアーマーの飛散後、顎のローテートを基点にカブト

ホーンが起立して顔面の定位置に収まり、「Change Beetle」と発声される。主にカブ

トクナイガン・クナイモードを使用した近接格闘戦を得意とする。

・ハイパーフォーム

カブトの第3形態。ハイパーゼクターを手に入れたカブトの最強形態。別名及び通称ハイ

パーカブト。全身のアーマーが内部にタキオンプレートを収納した、以前の2倍以上の強

度を持つカブテクターに再構成されている。

通常形態の他にカブテクターを展開し、大気中や真空中を自由に飛行でき、従来のクロッ

クアップ以上のスピードでの移動や過去や未来・異空間を自由に行き来できる「ハイパー

クロックアップ」を使用可能なハイパークロックアップ形態がある。成体ワームや強敵と呼べるワームを軽々と圧倒するほどマスクド・

ライダーフォーム時よ

りも戦闘能力が上昇しており、ハイパークロックアップによりクロックアップ以上のスピ

ードでの高速移動攻撃が可能。さらにハイパークロックアップ形態での空中戦も可能。

□ ツール □

・カブトゼクター

カブトムシ型昆虫コア。腰部に装着したライダーベルトにセットすることで変身し、その状態から頭部のゼクターホーンを右側に展開することでキャストオフする。

・カブトクナイガン

カブトが標準携行している武器。状況に応じて3種のモードを使い分けることが可能。各

技名の発声は行われない。

・ガンモード -

銃型の形態。3点式照準機ダットサイトにより夜間でも3?先の対象を正確に狙撃すること

が可能。側面のセクターでセミオート射撃とフルオート射撃の切替可能。ジョウン

トにより無限に送られる電子エネルギーを高エネルギーイオンビームに変換し、「アバ

ランチシュート」を放つ。

・アックスモード -

ガンモードを持ち替えた斧型の形態。主にマスキッドフォームで使用する。ガンモードの

グリップエンド部・クナイフレームに装備されたバヨネットアックスをエネルギー電子

によって超高温化し、触れる物全てを裂断する「アバランチブレイク」を放つ。

・クナイモード -

クナイフレームを取り去ったクナイ型の形態。刀身からイオンビーム刃を展開し、10m圏内のあらゆる物を切り刻む「アバランチスラッシュ」を放つ「8」。主にライダーフォームで使用する。

・ハイパーゼクター

カブトムシ型昆虫コア。自らの意思と強大な力を持ち、ジョウント時間移動能力を駆使して自力でも様々な時空を行き来できる。移動方法はカブトゼクターのように羽のゼクターウィングを展開するのではなく、スラスタースリットからの噴射による移動方法をとる。ライダーベルト左側に装着した後にゼクターホーンを倒すことでハイパーキヤストオフし、スラップスイッチを叩くことによりハイパークロップアップ状態となる。

・パーフェクトゼクター

ハイパーフォームの必殺武器。ジョウント移動によりカブトの下に来る。ソードモードからガンモードへの移行のほか、フルスロットルを押すことにより各々の電子音声が発声され、それぞれカブト・ザビー・ドレイク・サソードパワーを使用することができる。カブトパワーはパーフェクトゼクター単体、ザビー・ドレイク・サソードパワーは対応する各ゼクターを合体させることで、各ゼクターの特性を活かした攻撃が可能となる。上記の全ゼクターを合体させることにより、「All Zect or Combine」という発声とともに「パーフェクトモード」となる。

・カブトエクステンダー

カブト専用特殊強化バイク。元々はZECTが選んだ適合者に用意

した物だが、天道の愛車

となる。通常時はガソリンによる走行も可能だが、緊急時はECR放電におけるプラズマ

生成でイオン加速による超スピード走行が可能。カブトの意思により無人走行も出来る。

4、門矢 士 年齢：22歳 身長：182cm

（人物紹介）

写真家を自称し、二眼レフのトイカメラを常に身につけている。自信家で誰に対して

も尊大な態度で接するが、いざという時は世界や他者のために身を挺する。

相手に素性を問われた際の「通りすがりの仮面ライダーだ。覚えておけ！」が決め台詞

。また、ディケイドに変身した後、ライドブッカー・ソードモードの刀身を撫でたり、

手を払うように叩く仕草をする癖がある。また難しい話は「大体分かった」という口癖

で済ませ、写真撮影以外のあらゆる物事をそつなくこなす。

鳴海探偵事務所の一階にある元トイレの扉を開けた際にいきなりそこに写真館が現れた

際にいた『光写真館』の住人の1人で他にも連れがいる。

□ 仮面ライダーディケイド □

矢士が変身する仮面ライダー。基本カラーはマゼンタで、複眼の色は緑。別名全てのラ

ライダーを破壊する存在・全ての破壊者・世界の破壊者・悪魔。様々な並行世界のライダーの力を受け継ぐとされ、後述のカメンライドによりクウガからキバまでの平成ライダーに変身可能。様々な異世界を自在に行き来でき、さらに各世界のライダーを支援兵器に変形。ファイナルフォームライドさせ、ファイナルアタックライドにより必殺技を発動可能。土がかつて全てを失ったために各ライダーのカードが効力を失っていたが、異世界で他のライダーと心を通わせることでそのライダーに關与する力が使用可能になる。

□ ツール □

・ デイケイドライバー

デイケイドの変身ベルト。普段はバックルの状態で、装着者の腰に当てることでベルトが伸長して装着される。バックル両側を外側に引くことで、バックルが90度回転してカード挿入口が上部に露出する。そこにライダーカードを装填するとそのカードの種類が発声されて待機音が鳴り、ハンドルを押すことでそのカードの能力名が発声され、同時にカードの裏面に描かれたライダーの紋章が投影されて効果を発揮する。

・ ライドブッカー

左腰に携行される本型の専用武器。内部はクラインの壺へと通じており、ここにライ

ダーカードやエネルギーを無尽蔵に貯蓄している。カードバインダー型のブックモー

ド・剣型のソードモード・銃型のガンモードの3形態をとる。

・ケータッチ

ディケイドをコンプリートフォームへとファイナルカメンライド^{II}強化変身させる、

タッチパネル式携帯電話型ツール。黒い筐体にマゼンタのストライプが入った外観。

専用のライダーカード・コンプリートカードを挿入した後、パネルに浮かび上がっ

たクウガからディケイドまでの紋章アイコンを番組放映順にタッチすることで電子

音声が発生され、ディケイドライバーのバツクル部をケータッチと差し替えること

により変身完了する。

・マシンディケイダー

が最初から持っていたバイク。基本カラーは白・黒・マゼンタ。通常時はV型2気筒

エンジンによるガソリン走行だが、戦闘時はクラインの壺から無尽蔵の次元エネルギー

ギーが供給され、あらゆる環境を走破することに加え、アタックライドによりボデ

イを変異させて他のライダーのマシンに変形する「18」。さらに並行世界の移動や

ミラーワールドへの突入・ディケイドの意思による無人での自動走行も可能。

□ フォーム □

コンプリートフォーム

クウガからキバまでの9人の平成ライダーの力を取り戻したディケイドが、強化変身ツ

ール・ケータッチを用いてファイナルカメンライドⅡ強化変身したディケイド最強形態。

基本カラーは銀・黒で、複眼の色はマゼンタ。頭部はコンプリートフォームのライダー

カードが配され、肩・胸に装着された装甲・ヒストリーオーナメントには9人のライ

ダーカードが配置される。なおバックル部にはケータッチを装着し、取り外した

ディケイドライバーのバックルはベルトの右腰に装着する。通常はディケイドの状態

から変身するが、他のライダーにカメンライドした状態からでも変身可能。

5、大道 克己 年齢：28歳 身長：171cm

〈人物紹介〉

傭兵部隊「NEVER」の元隊長。NEVERとして蘇生されたことにより人間としての感情

が次第に欠落しつつある。若干の正義感も残されていたが、クオークス事件を通して

完全に冷徹な性格となる。

生来は優しい性格で故郷である風都を愛していた事から翔太郎はもし一つでも運命が変わっていたら自分たちと同じように風都を守る仮面ライダーになっていたかもしれないと語って死んだと思っていたのだが実際は瀕死の状態でマミに発見されていた。

それから密かにマミの研究施設において秘密裏にネクロオーバーの除去作業が続けら

れて数年をかけて元の人間に蘇生している。元からNEVERとして蘇生した事で生命は

得ていたのでマミ曰く『本当の意味で死んでいなければ必ず助けられる』らしい。

人として蘇生し、人間らしい感情を取戻して本来の彼の想いだった『風都を護る』と

いう意思のためにかつて敵だった『左 翔太郎』達と仮面の男に応戦する。

マミから新たに生成された新型ガイアメモリ『Rエターナル・メモリ』を授かる。

□ 仮面ライダーエターナル □

大道克己がエターナルメモリで変身する仮面ライダー。変身完了時にはW・スカル同

様風が巻き起こり、炎「65」が上がる。基本カラーは白で、アルファベットのEを横倒し

にした「山」型の触角を持ち、左右の目頭がつながり「∞（無限）」のようになっている。

□ ツール □

・ストドライバー

ジョーカー・スカルのものと同様の变身ベルト。

・Rエターナルメモリ（E / 白「73」）

『永遠の記憶』を宿したガイアメモリ。ロストドライバーを展開した時の角度に合わ

せて、イニシャルが斜めに描かれている。

ゼファームメモリ開発後に強化版として開発されたエターナルメモリでT2ガイアメ

モリを超える性能を得ている。その他にも現在では開発中らしい。

・エターナルエッジ

コンバットナイフ型のエターナル専用武器。ブルーフレアが投げ付けて使用した他、

青いエネルギー刃を飛ばす攻撃が可能。

今現在はここまでとなっております。随時、追加していきます。

設定資料〱オリジナル・味方勢力〱

1、霧島 渚

年齢：14歳

身長：153cm

〱人物紹介〱

新世代の魔法少女。タツヤが学校に通っていた時にクラスメイトで仮面ライダーに彼が変身するようになって魔獣との戦闘時に会ってお互いに相手の正体を知る事になる。

黒髪を片方だけ髪飾りで止める独特な髪型をしている。性格は穏やかで清楚な性格で

猪突猛進になりやすいタツヤを止めながらアシストする事が多い。

魔法少女になると黒と白を基調としたレースと腰に大きなリボンで装飾が施されている

るドレス調の服に髪も白のリボンでツインテールの髪に変わる。

戦闘の際には伸縮自在の連結剣でそれを鞭のように撓らせて敵を引き裂く戦法を取る。

設定資料〜オリジナル・敵勢力〜

1、名前：仮面の男 年齢：??歳 身長：175cm

〜人物説明〜

突如としてタツヤの前に現れて以降、タツヤの宿敵となる謎の男性。変身する前でも戦闘能力が高く、素手でもノーマルのアクセルやCJとやり合える。

何故か、タツヤやまどかの事、ゼファーについても詳しく謎めいた発言も多い。

自身も『仮面ライダーディスペアー』に変身する事が出来る。

魔獣の持つ『グリーンフシード』に内包されている絶望のエネルギー、そしてある理由

から概念となつたまどかと世界を繋いでいるタツヤの抹殺を狙う。

□仮面ライダーディスペアー□

仮面の男が変身する仮面ライダー。黒と銀がベースのボディに赤の複眼を持つ。

能力はゼファーに類似した部分が多いがゼファーが『人の光』を武器にするのに対し
て負の感情、『人の闇』を力にする。

ゼファー同様、打撃などに黒いオーラを纏わせて放つ事が出来る。

□ツール□

・ディスペアードライバー・

ディスペアーに変身するための機器。彼がいつも背負っている大剣型で刀身の下部分

にはめ込み、上部にスライドさせる事で変身が可能になる。

形態は大剣しかないものの威力が絶大、メモリスロットもゼファーが2つなのに対し
て3つのスロットを持っている分、さらに強大な能力を行使する事が出来る。

単体マキシマムはもちろん、ツインマキシマムも可能。

・暗黒騎馬『火炎号 プロギオス』・

デイスピアールが呼び出す巨体を持つ鋼鉄馬。全身のいたる所から黒焰を吹き上げながら怒涛の如く、戦場を走り抜ける。この馬にもスロットが装備されており、専用のメモリを使用する事で特殊な能力を発動する。

□メモリ□

・デイスピアールメモリ（D／黒）

『絶望の記憶』を宿したガイアメモリ。デイスピアールに変身するためのメモリ。

前記に記した通り、『人の闇』を糧として能力を上昇させる。

世界を絶望に包む事だけを考える仮面の男が使用する事で常に最大出力を発揮する。

・ダインスレイフメモリ（D／赤）

『血吸いの魔剣の記憶』を宿したガイアメモリ。変身時から常に使用しているメモリ

でデイスピアードライバーの能力を最大限に引き出す能力があり、使用者の『闇』を何倍にも増幅させ、周囲の『絶望』をエネルギーとして吸収する事が出来る。

・ガルガンタメモリ（G / 赤黒）

『暴食の記憶』を宿したガイアメモリ。プロギオス専用メモリ。これを差し込む事で周囲の『絶望』を瞬時に吸収して自身の能力を強化する。

・ポルバレイションメモリ（P / 青黒）

『裂砕の記憶』を宿したガイアメモリ。プロギオス専用メモリ。プロギオスの走り自体に破壊効果を持たせて一踏みで大地を砕き、震わす威力を出す。

・ペガソメモリ（P / 灰色）

『天馬の記憶』を宿したガイアメモリ。プロギオス専用メモリ。プロギオスに飛行能力を持たせる。その際は背中から黒翼が現れてその翼自体からも爆発物の羽を飛ばして攻撃する事が可能。

・デイストラクションメモリ（D / 銀）

『破壊の記憶』を宿したガイアメモリ。マキシマム専用メモリ。発動直後に上空に自身の『絶望』をエネルギー化した巨大な彗星を出現させてそれを落下させる事でありとあらゆるものを『完全に破壊』する事が出来るがこれを使用すると仮面の男自体にも莫大なダメージを与えるので強制的に変身が解除される。

□マキシマムドライブ集□

・デイスピアードークネス（デイスピアームメモリ単体）

刃に纏わせたエネルギーを使用して背丈の倍以上の大剣を生成してそれを使って相手

を一刀両断にする。さらに着地点から数十メートルを黒焰が波となつて襲う。

・デイスピアリベラクション（ダーインスレイフメモリ単体）
発動と同時に自身から闇の魔剣の化身を呼び出して周囲に人間を巻き込み、相手が最も恐怖する幻想を見せ、『絶望』のエネルギーを吸収し、精神を崩壊させる。

唯一、これが無効に出来るのはゼファーだけで彼にはこれは使用する事が出来ない。

・魔帝騎士『ムンドウス』（プロギオス乗馬+プロギオス専用メモリ3種類）

プロギオスに乗った状態で騎馬にペガソメモリ、ドライバーにガルガンタとポルバレイションを挿入する事でプロギオスを鎧として装備し、巨大な暗黒騎士となる。

その一撃がマキシマムドライブに相当する威力があり、反面、反動も大きい。

2、兵藤 要 年齢：32歳 身長：180cm

（人物紹介）

マミと同じ開発研究所にいた研究員。科学者としては天才的だったがその理論や開発したシステムの危険性から研究所より辞任追放されていた男。タツヤが戦う最初の敵で倒されてからもその恨みからか幾度となくタツヤの前に現れる。

仮面ライダーデルタの変身者。

□ 仮面ライダーデルタ □

基本カラーは黒と銀色。変身者は極めて攻撃的な性格へと変貌していく。これは胸部

に装備された闘争本能活性化装置・デモンズスレートが発するガンマ脳波の周波数を

強制的に引き上げる特殊な電気信号・デモンズイデアによるものである。

□ ツール □

・ デルタフォン

携帯電話型ツール。銃のグリップのような形状をしており、テンキーはついておらずコード入力はすべて音声で行う。

・ デルタドライバー

ベルト型トランスジェネレーター。トランスジェネレーターと一体型の構造は、最初

期に開発されたシステムであることに起因する。ゆえにバックル部にはミッションメ

モリーのみが装填されており、ハードポイントは右側にデルタムバー用が1つのみ。

・ デルタムバー

デジタルビデオカメラ型マルチウェポン。デルタフォン・デルタドライバーと連動す

ることで装着者をデルタへと変身させる。単体での武器として使われることはなく、

基本的にデルタフォンと組み合わせで用いられる。デルタフォンと接合させた状態で

取り外し「Fire」と音声入力すれば「Burst Mode」の音声が発せられ、光弾を発射する。ブラスターモードとして使用可能。さらにミッションメモリーを挿入（この

際「Ready」の音声と共に銃身が伸長する）して「Check」と音声入力すれば「Excited Charge」の音声が発せられ、相手をポイント（拘束・ロックオン）する光線を

発射する。ポインターモードとして使用可能。

*今現在はここまでです。出来次第追加していきます。

1話　＼Tのビギンズナイト／12年後の世界＼

（あの戦いからもう12年。わたしも26歳、家族を持つ歳になったわ、まどか）

1人の女性が窓際に座ってどこまでも続く空を眺めていた。テーブルにはバランスよく、色とりどりに作られた朝食が用意されていた。

彼女の名前は『暁美　ほむら』。かつて魔法少女と呼ばれ闇と戦った存在である。

【???】

「姉さん、おはよう」

声の先をみると白の柄の入ったシャツにオレンジにファアのついたジャケットと革製のハイウエストベルトに斜めのベルトが付属されたモノを巻いて灰色に両サイドに十字のラインとエンブレムが入った特注のズボンをはいた少年がいた。

【ほむら】

「おはよう、タツヤ」

彼の名前は『鹿目　タツヤ』。ほむらとその仲間だけが知る1人の少女、彼の実の姉

でもあり、この世界を救った魔法少女『鹿目　まどか』の弟である。今現在はこのアパートでほむらと2人で細々ながら幸せな家族生活を送っている。

【ほむら】

「今日は依頼調査の日だったわね。がんばるのよ、タツヤ？」

【タツヤ】

「うん、もちろん！オレ、この間は翔太郎さんに少しはイイ顔になったって褒められたんだ」

【ほむら】

「そう・・・良かったわね。それとお弁当も作ってあるから忘れないでね？」

毎朝、こうしてタツヤのお昼のお弁当を作って送り出すのが日課である。

前のように戦いに明け暮れていたのが嘘のような小さいながら親友から預かった大切な弟のタツヤとこうしてありふれた幸せな毎日を送れるのが嬉しかった。

【ほむら】

「最近は・・・まどかの声は聞こえる？」

タツヤは時折、彼だけの聞こえる声を聞く事がある。それは彼自身、自分の姉であるまどかの声だと思っていて離れていても心と心は繋がっていると信じているのだ。

【タツヤ】

「うん、この世界のどこかにいるんだもし、テレパシーがあったって不思議じゃない」

じゃん。それにいつかまどか姉さんと会つのが夢なんだ」

すでにまどかがどうなったのかを知っているほむらは複雑な表情を浮かべる・・・が。

【ほむら】

「そうね、いつかまどかと会える日が来るわよ。今は一生懸命、がんばりなさい？」

【タツヤ】

「うん、姉さん。ありがとう！」

タツヤの頬に触れて髪に触れながら優しく撫でる。満更、彼も嫌というわけでもない様だ。

【タツヤ】

「それじゃいつてきまーす！」

【ほむら】

「いつてらっしゃい、気を付けていくのよ？」

手を振るタツヤに笑みを浮かべながら手をほむらも振りかえす。本当に満ち足りた日々だ。

すると肩を叩かれて振り返ってみるとそこにいたのは金髪のロール髪が特徴的な女性

がいて彼女は同じ魔法少女だった『巴 マミ』だった。

【マミ】

「お久しぶり、曉美さん」

【ほむら】

「マミさんも久しぶりね、研究の方はいいの？」

今現在、マミはガイアメモリとそれを応用した対都市防衛のための武装開発をしている。

【マミ】

「タツヤ君も大きくなったわね。今じゃ、街の人から頼りにされてる探偵の卵だもの」

【ほむら】

「ああ見えても自慢の弟だもの。姉としても鼻高々よ」

紅茶を淹れてマミが作ってきたお茶菓子で2人でティータイムと洒落こみ始める。

【マミ】

「わたし達が魔法少女を降りて12年になるのね・・・、まだ後輩達が戦ってはいるけど」

【ほむら】

「今は翔太郎君や、照井君、他にも『仮面ライダー』達が戦ってくれてるしね」

彼女達の時代にはいなかったが今現在は『魔法少女』の他にもこの世界に現れる新たな

脅威『魔獣』やこの街で事件を起こしている『ドープアント』達と戦う存在として現れた

のが『仮面ライダー』と呼ばれる戦士に変身する者達だった。

【マミ】

「でも平和になった・・・最近はそう思えるわね。ドーパント事件はあると言っても

彼らのお陰で大きな事件になる前に解決されるし、魔獣達も活発な活動をする前に

魔法少女と強力して戦ってくれているお陰で街も穏やかだわ」

窓から吹き抜ける爽やかな風で靡く髪を手で抑えながら紅茶を飲み、一息をつく。

【ほむら】

「本当に・・・こんな毎日が続いてくれるといいわ。いえ・・・続くわね」

【マミ】

「ええ、そうね」

穏やかな空気の中で平和な時間がかつての少女達は心から嬉しく思うのだった。

・ ・ ・ ・

【タツヤ】

「翔太郎さん、おはようございます!」

【翔太郎】

「おう、今日は街の荒くれ共退治だ。ビビるなよ、タツヤ?」

いつものソフト帽をかぶり、タイプライターで営業日誌をつけてい

るのがタツヤの

師匠でこの鳴滝探偵事務所の探偵をしている仮面ライダージョーカーこと『左 翔

太郎』でこの街では街を護るヒーローとして慕われている。

【タツヤ】

「俺の実力知ってるでしょ？油断しなきゃ、翔太郎さんにも負けな
いッスよ」

こう見えてもタツヤは中国拳法を覚えており、照井ともやり合える
レベルで腕っぷ

しだけは翔太郎よりも強いが探偵としてはまだまだひよっ子と自覚
している。

【翔太郎】

「いくぜ、相棒」

【タツヤ】

「はい！」

翔太郎の愛車『ハードボイルダー』の後部座席にタツヤも乗り込ん
で依頼に向かう。

・ ・ ・ ・

【チンピラA】

「覚悟しやがれ、探偵！」

【翔太郎】

「いい加減に聞き飽きたつつの！うらっ！」

向ってくる相手を蹴り飛ばし、護身術で覚えた柔道技でそのまま投げ飛ばす。

【チンピラB・C】

「ガキなら負けねえ！」「泣けや、オラー！！」

【タツヤ】

「お前らがな！」

震脚による発勁を行い、そのまま滑るように一瞬で間合いを詰め、強烈な肘打を叩き込む。

【タツヤ】

「お次は張果老の奥義、回転蹴りにさらに得意の連続蹴りだ！」

手をつきながら身体全身を回転させて上で両足を使った蹴りで相手を蹴散らしてさらに相手の蹴りを放つ前に膝を足裏で蹴り落して体勢を崩したところに前蹴りと飛び上がりながらの片足蹴りをいれて連続で足払いをくらわせて転倒させる。

【チンピラC】

「こ・・・の糞ガ——ぐへっ!?!」

しかし起き上がる前に翔太郎が手刀を後頭部にくらわせて気絶させる。

【翔太郎】

「はい、」苦勞さん」

【チンピラB】

「くそが――うぎゃ!?!」

だがその前にタツヤの回転飛び回し蹴りが炸裂して宙で回転しながら地面に転がった。

【タツヤ】

「さすが翔太郎さん、仕事早いッスね」

【翔太郎】

「当然だろ? スマートに事件を解決するのがハードボイルドな探偵だぜ」

【タツヤ】

「でも竜さんとか、天道さんとかがハードボイルドって言ってますよ? (笑)」

その性格からかどうにも2枚目になりきれない、煮え切らない3枚目と仲間内からは『ハーフォイルド』と呼ばれているのだ。

【翔太郎】

「うっせえ! お前は師匠に対して生意気な口をききやがって、うらうら〜!?!」

【タツヤ】

「ちよっ!?! 痛っ、痛ッ!?! 翔太郎さん、マジストップ! 地味に痛い!?!」

なんだかんだでいいコンビになってきた翔太郎とタツヤの2人だった。

・ ・ ・ ・

【タツヤ】

「今日もご苦労さんっ」と」

依頼も終了した帰りに缶珈琲を買って帰宅の道を歩くタツヤ。今回もほとんど肉体労働だけしか役に立っていなかったなとある意味では反省会のようになっている。

犯人がどこをたまり場にいるか、どういった行動パターンを取っているか、構成はどうなっているのかなど全て翔太郎が人脈を駆使して調べ付いていっただけだった。

【タツヤ】

「オレもあの人みたいな探偵になれるのかな．．．てかなるっきやないだろ」

本当に師匠としてまた兄貴分として翔太郎に憧れを抱いていて目指すべき目標なのだ。

【マミ】

「あら？タツヤ君じゃない、こんばんわ」

すると丁度、マミと鉢合わせしたのだがタツヤが少し警戒するよう

に距離を取った。

【マミ】

「もう・・・っ！お姉さんに対してそういう態度は駄目じゃないの？レディに失礼よ」

【タツヤ】

「そういつて毎度毎度、心臓に悪い悪戯をするのはマミ姉でしょ、まったく・・・」

文句を言いながらも2人そろって夜道を歩いていく。

【マミ】

「最近は何張ってるみたいね。街の人から風の便りで聞いてるわよ？」

ほむらを始め、マミ達もタツヤは本当の弟のように接しているので彼女も街の住人達からタツヤの評判を聞くとほむら同様に嬉しく思ってしまうのだという。

【タツヤ】

「俺は翔太郎さんや竜さんの手伝いをしてるだけでほとんどは2人の功績ですよ」

【マミ】

「あなたはもつと自分に自信を持ちなさい？暁美さんも言っていたけどわたしからして

も自慢の弟なんだから。ほら、ご褒美にぎゅっとしてあげるわ

っ」

そういつてマミがタツヤを引き寄せて自分の胸にタツヤの顔を埋めさせるようにぎゅっ
と抱きしめた。マミのスタイルは中学生時代から抜群によく、大人になった今ではさらに磨きがかかっていて途端にタツヤの顔がやかんのように真っ赤になっ
ていく。

【タツヤ】

「マ、マ、マ、マミ姉！？離して！つか、胸！胸に沈む・・・！？」

【マミ】

「沈めてるんだから当然よっ（やっぱり悪戯しがいがあるわね、うふふ）」

基本的にお茶目な性格が強くなったのかタツヤは恰好の獲物になっているようだ。

【?????】

「お楽しみの最中にすまないね、巴博士」

すると目の前には白衣姿でどこか生気が抜けたような表情の男性がこちらを向いていた。

【マミ】

「あなたは・・・兵藤博士。確か研究所を辞任させられたはずじゃ」

マミによると彼も開発研究所において武装開発をしていたのだがマミが以前に開発して
保管してあったガイアメモリを使用しない変身機器を利用して新た

な武装を開発したもののそのシステムや理論の危険性から研究所より辞任追放されたのである。

【兵藤】

「あなたが罵倒したわたしのシステムがどれだけ優れているか、認めさせてやろう」

そういつて取り出したのは銃のようなグリップがついた携帯電話で腕には翔太郎達が使っているガイアメモリと同じくぼみがある籠手のような装備、ベルト型のドライバーのようなものをつけていて白衣を脱ぎ捨てて何かコードを入力し始める。

【兵藤】

「3 3 3」 【S t a n d i n g b y】

【兵藤】

「変身」

トリガーを引きながらベルトの右についている機器に挿しこむと音声と共に身体の周り

に白いラインが引かれて一瞬の閃光と共に兵藤が仮面ライダーに変身した。

ギリシャ文字のΔ（デルタ）を模したデザインを持つ仮面ライダーデルタである。

【兵藤】

「おおおおお！！！！！」

いきなり襲い掛かってきたデルタにマミを横に突き飛ばしてタツヤが裏に受け流し、背中を蹴り飛ばして一旦距離をおき、マミを立ち上がらせて車の陰に隠れさせた。

【兵藤】

「このガキが！」

殴り掛かってくる兵藤の攻撃を得意の体術で受け流しながら装甲の薄いスーツ部分的に的確な打撃を与えて生身でライダーを相手にし始める。

確かにライダーには変身したのだが戦闘ではタツヤの方が実力は格段に上だったようで

攻撃を尽く避けられて逆に体術で反撃を返される。しかも両手にメリケンを付けた状態で

殴りつけているので薄いスーツ部分を叩けばダメージもそれなりである。

【タツヤ】

「動きが素人だな。街の荒くれ者の方がよっぽどマシな動きが出来るもんだよ」

タツヤもまだまだ幼いながらも場数は踏んでいる。この程度の動きなら読み切れた。

【兵藤】

「なめるなよ、小僧……!!」 LIGHTNING

落雷で【L】の字が刻まれた生成メモリを腕にはめ込むと発声音と

共に両手から強力な雷撃を放出してタツヤが間一髪で避けるのだがここで兵藤に変化が起きる。

【兵藤】

「オオ・・・ハッハッハ！！オオオオオオ！！」

いきなり豹変してさっきより鋭い攻撃をしかけて打撃に雷撃を纏った状態で防御したものの直撃をくらってタツヤも吹っ飛び、感電効果で動けなくなる。

【タツヤ】

「なんだ、こいつ・・・！いきなり動きが」

【マミ】

「デルタのシステムは使用者を戦闘狂に変貌させるの。くっ・・・こっとなったら」

そういうとマミが持っていたアタッシュケースに手を伸ばした時、声が響く。

【杏子】

「マミー！」

【タツヤ】

「杏ー！」

走ってきたのはマミの助手を務めているかつての魔法少女『佐倉杏子』でその手には

短剣のような特殊なドライバーが握られており、手のメモリを起動

させる。

【杏子】

Zephyr 「変身！」

柄の部分にメモリを挿しこむと同時に光の螺旋に包まれてそれが砕け散るようなエフェクトがかかってそこからエメラルドとホワイトをベースにした身体に青の複眼を持つ仮面ライダーが現れてデルタに応戦する。

【兵藤】

「ハッハッハハ！！コウス、コウス、コウス！」

【杏子】

「大人しくしろ！この野郎！」

だがシステムの性能によって狂戦士化している兵藤は戦い慣れをしているはずの杏子でもなかなか抑え込む事が出来ずに雷撃や射撃が可能なデルタムーバーの攻撃も相まって苦戦を強いられていた。

【マミ】

「やっぱり杏子でもゼファアーの能力は活かしきれてないのね」

【タツヤ】

「ゼファアー？」

あれは研究所で開発された最新鋭のライダードライバで仮装着者

として杏子が使っているが性能をまだ発揮しきれていないようでそれが苦戦の原因だという。

【兵藤】

「クロコゲニシテヤルウ・・・!!」

その両手に蒼い稲妻と赤い稲妻が螺旋を描いた球体が現れてそれを放ってくる。

【杏子】

「くそっ・・・——うああっ!?!きゃああっ!?!」

腕に付けていた盾で防ごうとしたがその威力に軽々と吹き飛ばされてしまい、そのまま

変身が解けてしまった杏子に急いでマミが駆け寄る。

【マミ】

「杏子! 杏子、しっかりして!」

【杏子】

「悪い・・・、ゼファーの能力、まだ活かしきれねえ・・・!」

【タツヤ】

「どうすりゃ・・・どうすりゃいいん(んっ、これは?)」

足元にあったのはマミが持っていたアタッシュケースでさっきの衝撃で留め具部分が壊れたのか、開いていて中には銀の金属でつくられたベルトと携帯電話と筒状の機器

に薄型のカメラのようなものがあってケース上部に説明書きのようなものがあつた。

【タツヤ】

「555ドライバー？やるしかない・・・あれと戦う力があれば・・・！」

そついうと説明書き通りにベルトを腰につけると携帯電話型の変身機器である55

5フォンを開いて変身コードを入力する。

【マミ】

「・・・っ！駄目、タツヤ君！それは適合者じゃないと身体にダメージを・・・！」

【タツヤ】

5 / 5 / 5 【S t a n d i n g b y】 「変身！」

上に掲げてから555ドライバーのバックル部・フォンコネクターにフォンを突き立て左側に倒すと発声音と共にタツヤの身体の周りに赤いラインが浮び光を放つ。

【Complete】

【兵藤】

「・・・っ！ファイズ・・・！」

【マミ】

「タツヤ君がファイズの適合者・・・！今までわたし以外、適合し

なかったのに」

そして兵藤に向き直ると襲い掛かってくる兵藤にカウンターを顔面に叩き込んで軽々と

転がして自分の姿をもう一度、確認してみる。

ギリシャ文字の中（ファイ）を模したデザインに複眼の色は黄の仮面ライダー555だ。

【タツヤ】

「よくもやってくれたな。覚悟しろよ！」

そっぴいながら手首を振るモーションを見せた後にゆっくりと近づいていく。

【兵藤】

「オオオオオオッ!!」

【タツヤ】

「甘いんだよ！オラ！ハッ！もう一発!!」

鋭い攻撃を前蹴りの牽制でとめて大ぶりのフックからハイキックで蹴り飛ばして車に

激突させる。反撃をしようと雷撃を撃つ体勢に入っただのを見てファイズフォンを外す。

【タツヤ】

1 / 0 / 6 【Burst Mode】 「させるか！」

光弾を3連射できるブラストモードにして雷撃を放つまでのキャスティングタイムに

阻止してさらに連射してダメージを与えてデルタは地面を転がる。

【杏子】

「タツヤ！これとミッションメモリーをファイズポインター2ndに入れてとどめだ！」

そういつて杏子が投げたのはさっきまで彼女が使っていたゼファーマemoryでそれを受け取り、腰に付けていた筒状の機器・ファイズポインターにミッションメモリーを挿してさらに上部のスロットにゼファーマemoryを挿して脹脛にセットした。

【Exceed Charge】

ファイズフォンを開いてENTERを押すと発声音と共にファイズのエネルギーの元となるフォトンブラッドがファイズポインターに充填されてさらに発声音が響く。

膝に腕を置いてダッシュする構えを取りながら態勢を低くする。

Zephyr MAXIMUMDRIVE

このファイズポインター2ndはExceed Chargeのエネルギーを利用してMAXIMUMDRIVEを併用発動する事で魔獣にもドーパントにも対応出来る二極性を出したモノだ。

ドーパントにExceed Chargeだけの技を使えばメモリーブレイクせずに殺してしまう事

になるのでドーパントをも撃破できるようにマミが改造したのがコレなのである。

【兵藤】

「バカナ・・・コンナ・・・コドモ二・・・!!」

一気に加速してそのまま飛び上がると前転をしながらファイズポインタから円錐状の赤い光とその周りをさらに包む白の円錐状の光を放って目標のデルタをポイントすると飛び蹴りのまま突撃する。

【タツヤ】

「やあああああああああ!!!!!!」

円錐状の光と共にデルタに直撃して姿が粒子のように消えてその裏にまたファイズが現れるとデルタの身体に「Φ」の文字が浮びあがって断末魔の叫びを上げる。

【兵藤】

「うーおおおお・・・があっ!?!」

大爆発と共に兵藤の変身が解けてボロボロの状態でファイズを恨めしそくに睨む。

【兵藤】

「デルタが・・・わたしのデルタが・・・旧式のファイズなどに・・・!!!!」

そしてタツヤは鳴滝探偵事務所の探偵が代々受け継いでいるあの言葉を投げ掛ける。

【タツヤ】

「さあ、お前の罪を数えろよ」

兵藤を指差しながら翔太郎やその師匠も街を泣かせる悪党に言う決
め台詞を言った。

【兵藤】

「そんなもの知らんよ・・・!!」

デルタムーバーに「3、8、2、1」と入力すると突如として轟音
と共に巨大なボデ
イの大型バイクが突撃してきてそれにタツヤが吹き飛ばされてしま
う。

【タツヤ】

「ぐはっ!？」

【兵藤】

「今日は退く・・・!だが覚えている、巴 マミ・・・小僧!」

その一撃でファイズの変身が解けてしまい、兵藤はどうにかその大
型バイク・ジエツ
トスライガーに乗り込んで一目散にその場から逃げに行った。

【マミ】

「タツヤ君!」

【杏子】

「大丈夫か、タツヤ!」

2人に支えられてどうにか立ち上がるタツヤ。どうやら軽傷で済んだようである。

【マミ】

「まさかあなたがファイズの適合者になるなんて・・・わたしより使い熟してたわね」

【タツヤ】

「伊達に仮面ライダーの師匠を持つてないですよ。戦い方は誰よりも見て来てますし」

とりあえず自分で立てる程度には回復したようで一呼吸おいてファイズフォンを見た。

【マミ】

「それはあなたが持っていた方が良さそうね。街を護る事もそうだがどまた彼が襲って

こないとも限らないし、それ・・・受け取ってもらえる？」

それはタツヤにとっても願ってもない事だった。ずっと翔太郎のよ
うにドーパントや魔

獣達と戦う力が欲しかった。いつもその手の相手の時は見ているだけだったから。

翔太郎がピンチでも助けられずに竜達が来るのを待つしかなかったのが悔しく思っている

た事もあったし、自分の手にある『戦う力』を見て同時に翔太郎の言葉を思い出す。

（いいか、お前が力を手にするような事があつたら覚えておけよ？

力を手にした奴って

のは必ず誰かを護れる存在になれるが誰かを泣かせちまう悪党にもなるって事を)

【タツヤ】

「(俺は悪党じゃない・・・誰かを護れるそんな探偵に、ライダーになる)」

マミに向き直るとはつきりと答える。

【タツヤ】

「はい、受け取らせてもらっよ、マミ姉。そしてマミ姉も杏も俺が護ってみせる」

そういったタツヤに驚いたような顔をしたマミと杏子だがすぐに笑い出す。

【マミ】

「まったく、あの可愛い子がこんなに逞しくなるなんて・・・よしよし」

【杏子】

「タツヤのくせに生意気だっつうの！わたしを護るなんて10年早いはー!」

そついいながら杏子にヘッドロックを決められ、マミに頭を撫でられる天国と地獄を

一変に味わう可笑しい状況になっていた。

【タツヤ】

「痛い！痛い！痛い！杏、少しは手加減しろよ！？馬鹿力過ぎる！」

【杏子】

「なっ！？誰が馬鹿力だ！レディに対して……！」

だが気付かなかった。3人の後ろに鬼より恐ろしい人物が迫っている事に。

【ほむら】

「タツヤ……っ！」

【タツヤ】

「げっ！？姉さん！」

裏にいたのは黒いオーラを放ったほむらで仁王立ちしながら睨みをきかせていた。

【ほむら】

「遅くなる時はちゃんと連絡しなさいと言ったでしょ……？それに何これは？」

周りの惨状を見てタツヤが危険な事をしたのを察知したのかタツヤを杏子からふんだくるとほむらがヘッドロックでタツヤを締め始める。

【タツヤ】

「痛い！？痛い！？痛すぎるって！？姉さん、ストー……ッ！」

【ほむら】

「約束を守らない悪い子にはおしおきよ！反省なさい、タツヤ……！」

【マミ】

「曉美さんも随分と変わったわね．．．．」

【杏子】

「なんつつ親馬鹿．．いや、姉馬鹿．．．」

ほむらにおしおきを受けるタツヤを苦笑いで見つめる杏子とマミ。
平穏な時間が取り戻されたかに見えたがこの日からタツヤの運命は
大きく変化する。

そうこの日、この夜がタツヤにとっての．．．『ビギンズナイト』
となる。

1話 くTのビギンズナイト／12年後の世界く（後書き）

ご意見・ご感想をお待ちしております。

今日のライダー名言

「おい知ってるか？夢を持つとな、時々すっごい切なくなるが、時々すっごい熱くなる、らしいぜ。」

次回もお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3349y/>

仮面ライダー×まどか マギカ†-ゼファー&デスピアー ライダー・魔

2011年11月21日11時07分発行